

発達障害学生への修業支援の効果と要因分析

— 支援効果と被援助志向性の関連に着目して —

○吉田ゆり 田山淳 鈴木保巳
 (長崎大学教育学部) (長崎大学大学院教育学研究科) (長崎大学大学院教育学研究科)
 KEY WORDS: 発達障害 大学生 被援助志向性

(目的)

大学における発達障害学生への支援について現在は大学内でも障害学生支援室などを中心としながら、各学部や包括的な支援が可能となってきたが、その有効性の検討の研究は少ない。本研究では、1年後期にスクリーニングした結果を用いて、支援を実施した学生と支援を実施できなかった学生の1年間のフォローアップ面接結果を中心とした群間比較を行った。本稿ではそのうち修業に関する支援効果を検証し、支援を実施した学生の特徴を明らかにすることを目的とする。

(方法)

対象と手続き: A 大学 B・C 学部 (1年後期在籍) 学生。研究趣旨説明・同意を得て実施した発達障害スクリーニングのためのテストバッテリー(6種, 表1)結果のうち、ASDリスクがあると判断された学生14名に対し、1年間のフォローアップ面接を依頼、同意を得られた学生を面接群(7名)とし1年間の継続的なフォローアップ面接を実施した。また同意が得られなかった7名については、1年後に現状確認の面接を1回のみ実施した。

フォローアップ面接の際には、現状把握を目的とした聞き取り面接を中心としたが、必要に応じて各箇所との調整を行い、また居場所提供機能を持つこともあった。頻度は2ヶ月に1回を原則としたが回数は学生によって異なった。

1年間の面接の後、面接記録から支援構造と修業に関する状況を分析し少数例ではあるが傾向をみるために群間比較を行った。さらに2群間の学生の特徴の違いについて、面接開始前の検査バッテリーの結果を再分析した。

面接期間: 201X年9月~201X+1年9月

(結果と考察)

1. 修業困難の群間比較

面接群は、構造度の異なる支援を複数受けることができ、単位取得の滞り、科目単位・実習での不適応、人間関係やライフスキルの未熟さによる失敗などは報告されたものの、修業中断や進路変更に係わるような大きな困難は報告されなかった。一方、面接なし群7名は構造的な支援体制は確認できず、留年(2人)休学(2人)実習再履修(2人)実習中断(2人)希望職業変更・進路変更(3人)などの修学困難が確認できた。よって、就業への支援は有効であったと考える。

表2 面接群学生の支援体制

	医療	保健医療推進センター	障害学生支援室	研究者面接	担任等配慮	窓口対応
	診断治療	カウンセリング	合理的配慮の調整	現状把握・居場所・調整		調整
A	◎	◎	○	◎	◎	○
B	◎	◎	○	○	◎	○
C	○	○	なし	○	○	なし
D	なし	なし	なし	○	○	なし
E	○	○	なし	○	○	なし
F	なし	なし	なし	○	○	なし
G	なし	なし	なし	○	○	なし

2. 支援開始当時の検査バッテリーの結果の比較から

2群間の支援開始当時の検査バッテリー結果の再分析を行った。その結果、AQ-J 得点や社交不安障害得点についての差はなく、CISS 得点に於ける情動優先対処と CLAS 得点において有意さがみられた。よって、面接群においては1年後期の段階で、ストレス状況対処の方略において情動優先的対処を行う傾向があったこと、及び大学生活における困難を自覚していた。課題解決を優先させるより情動面に重きを置くことは、他者への関心の高さや自己の感情の表出を示している。大学生活における困難や不適応感というストレスを認知し、対処として情動的に他者に向かう、被援助志向性を示すとも考えられる。発達障害学生が大学での効果的な支援を受けるためには被援助志向性の高さに関連し、援助要請力が重要であることを示唆している。

(文献)

高橋知音(2014).発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック,学研. 若林昭雄ら(2004).自閉症スペクトラム指数(AQ)日本語版の標準化, 心理学研究,75
 *本研究は、長崎大学医歯薬研究科研究倫理委員会の承認(15011657)を受けた。また科学研究費補助金(基盤C:平成26~28年度)発達障害のある大学生支援のための包括的アセスメントシステムの構築と実践(代表者:吉田ゆり, 課題番号26381328)の補助を受け実施し、また(基盤C:平成29~32年度)発達障害のある大学生のための包括的なプランニング力支援プログラムの開発と実践(代表者:吉田ゆり,17K04952)の基礎研究として位置づけている。(YOSHIDA Yuri, TAYAMA Jun, SUZUKI Yasumi)

表 2群間の支援スクリーニングのための検査バッテリーの結果比較

	AQ-J	困りごと(ASD)(信大版)				CISS					CLAS	QOL	社交不安障害
		平均得点	対人的困り感	自閉的困り感	課題優先対処	情動優先対処	回避優先対処	気分転換	気晴らし				
カットオフ	33点以上	パーセント 90:1.22 95:1.54 99:2.02	パーセント 90:1.29 95:1.64 99:2.36	パーセント 90:1.25 95:1.55 99:2.18	70~ 平均を大幅に上回る 66~70 平均をかなり上回る 61~65 平均を上回る 56~60 平均を僅かに上回る 45~55 平均					65~強い不安 45~55 やや不安	平均値 (3.24±0.47) (3.34±0.45)	77~ 高 45~76 中	
面接なし(統制群)	平均値	35	1.53	1.49	1.45		49.71	53.71	23.00	16.29	38.29	3.22	69.43
	SD	2.71	0.39	0.63	0.55	11.36	6.45	13.36	7.13	5.47	23.12	1.58	3.05
面接あり(実験群)	平均値	35	1.78	2	1.8	44.43	59.14	46.57	21.86	12.86	65.29	2.7	67.86
	SD	2.58	0.14	0.53	0.13	12.22	6.34	5.41	7.99	1.57	6.4	1.42	19.09
df		12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
F値		0.91	0.00	0.70	0.00	0.86	0.97	0.04	0.79	0.01	0.01	0.04	0.00
t値		0.50	0.08	0.07	0.07	0.22	0.01	0.11	0.24	0.08	0.01	0.07	0.42
<0.05		n.s	n.s	n.s	n.s	n.s	*	n.s	n.s	n.s	*	n.s	n.s